

高橋瑞遺骨の形質

松下孝幸^{*}・松下真実^{**}・太田妙子^{***}

【キーワード】：近世・近代、女性人骨

はじめに

高橋瑞^{たかはしみず}は1852(嘉永5)年10月24日、六男三女の末っ子として、西尾市鶴ヶ崎で生まれ、1927(昭和2)年2月28日に亡くなっている。享年76。父、驥六郎^{きろくろう}は、西尾藩士で馬廻り役というかなり重要な役職に就いており、けっして微禄ではなかったというが、瑞が10歳の時に死去している。父の死後、瑞は長兄夫婦の元で暮らし、その後結婚したが、すぐに離婚し、産婆となった。産婆をしながら、苦労、苦学して、1887(明治20)年、医術開業免許を取得している。わが国で第3号の女医である。磯谷逸夫の「岩瀬彌助の生涯 第2部 日本の女医を育てた高橋瑞」(三河新報社)によれば、彼女は、男まさりでたくましく離婚歴があり、働いて働きまくり、お金がたまると、資金を勉強につぎ込んでいたという。60歳で医師を廃業し、その後は和歌三昧の生活を送ったという。また、永年の苦労がたたって体がぼろぼろになっていたとも磯谷は推測しているようである。このようにある程度、その生活史がわかっている高橋瑞の骨がどのようなものであるのかは、人骨から生前の容貌や生活スタイルを復元しようとする人類学研究にとっては、貴重なケーススタディーとなるもので、ライフヒストリーを人骨から読み解くための貴重な資料にもなるものである。

今回、東京女子医科大学解剖学教室に、高橋瑞の遺骨として保管されていた人骨を研究する機会に恵まれたので、その人骨形質について記載しておきたい。

資 料

高橋瑞の遺骨は、骨標本番号13として保管されていた。人骨の保存状態、遺存状態はきわめて良好である。計測方法は、Martin-Saller(1957)によったが、脛骨の横径はオリビエの方法で計測し、鼻根部については鈴木(1963)と松下ら(1983)の方法で計測した。

所 見

各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

外後頭隆起はわずかに隆起している程度である。乳様突起の長さは短く、基部は大きい。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は左右とも認められない。三主縫合は、内板の観察はできなかったが、外板の観察ができた。冠状縫合の外板は、まだ開離しているが、矢状縫合とラムダ縫合の大部分は癒合している。

脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が168mm、頭蓋最大幅は140mm、バジオン・ブレグマ高は128mmである。頭蓋長幅示数は83.33、頭蓋長高示数は76.19、頭蓋幅高示数は91.43となり、頭型はbrachy-

* Takayuki MATSUSHITA、** Masami MATSUSHITA [土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム]

*** Taeko Ohta [大阪大学名誉教授、前・大阪大学保健センター]

hypsiprion, tapeinokran (短、高、平頭型) に属している。また、頭蓋水平周は 493mm、横弧長は 306mm、正中矢状弧長は 357mm である。

(2) 顔面頭蓋

眉上弓の隆起はほとんどみられない。鼻根部はやや広く、扁平である。鼻骨の最小幅は鼻骨基部にあり、鼻骨の隆起は弱く、顔の幅径は狭い。

顔面頭蓋の計測値は、顔長が 98mm、頬骨弓幅は 125mm、中顔幅は 90mm、顔高は 113mm、上顔高は 65mm で、顔示数は 90.40 (K)、125.56 (V)、上顔示数は 52.00 (K)、72.22 (V) となり、顔面には高・狭顔傾向が認められる。

眼窩幅は 42mm (右)、42mm (左)、眼窩高は 36mm (右)、34mm (左) で、眼窩示数は 85.71 (右)、80.95 (左) となり、右側は hypsikonch (高眼窩) に、左側は mesokonch (中眼窩) に属している。

鼻幅は 25mm、鼻高は 49mm で、鼻示数は 51.02 となり、chamaerrhin (低鼻) に属している。

鼻根部の計測値は、前眼窩間幅が 16mm、鼻根横弧長は 18mm、鼻根彎曲示数は 88.89 となり、鼻根部は扁平である。両眼窩幅は 95mm で、眼窩間示数は 16.84 となり、顔の幅に対して、眼窩間幅は狭い。鼻骨最小幅は 4mm で、前頭突起水平傾斜角は 111 度を示し、前頭突起の向きは前額方向である。鼻根角は 149 度、鼻根陥凹示数は 18.92 である。鼻頬骨角は 154 度で、この角度は大きく、顔面扁平示数は 11.58 である。

側面角は、全側面角が 83 度、鼻側面角が 86 度、歯槽側面角は 70 度で、歯槽性突顎の傾向が認められる。

下顎体の高径は低く、下顎枝は細長い。下顎切痕は深く、角前切痕はみられない。筋突起は大きく、咬筋粗面はやや発達している。下顎頭は小さい。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

[●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 /：不明 ▽：先天性欠損、番号は歯種]
[1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯]

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

右側の手の骨を除くすべての骨が残存していた。

①鎖骨

大きさは普通である。

②上腕骨

長さは短い。骨体は細く、三角筋粗面の発達は見られない。

計測値は、最大長が 269mm (右)、270mm (左)、骨体最小周は 51mm (右)、51mm (左)、中央周は 52mm (右)、52mm (左) で、長厚示数は 18.96 (右)、18.89 (左) で、上腕骨はきゃしゃである。また、中央最大径は 18mm (右)、18mm (左)、中央最小径は 14mm (右)、14mm (左) で、骨体断面示数は

77.78(右)、77.78(左)となり、骨体の扁平性は弱い。

③橈骨

骨間縁は骨体近位 1/3 あたりでやや鋭く突出しているが、骨体はかなり細い。

④尺骨

骨間縁は発達しているが、骨体は細い。

(2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨および足の骨が残存していた。

①寛骨

大坐骨切痕の角度と恥骨下角は大きい。また、耳状面前溝は、幅は狭いが、かなり深い。

②大腿骨

左右とも完全である。長さは短い。また、粗線は骨体中央部でやや発達している。骨体はやや大きい。

計測値は、最大長が 378mm(右)、378mm(左)、骨体中央周は 78mm(右)、77mm(左)で、長厚示数は 20.69(右)、20.42(左)となり、骨体は頑丈なものではない。骨体中央矢状径は 26mm(右)、26mm(左)、横径は 25mm(右)、24mm(左)で、骨体中央断面示数は 104.00(右)、108.33(左)となり、粗線は中央部でやや発達している。また、骨体上横径は 28mm(右)、28mm(左)、骨体上矢状径は 21mm(右)、20mm(左)で、上骨体断面示数は 75.00(右)、71.43(左)となり、骨体上部は扁平である。

③脛骨

長さは長いものではなく、骨体も細い。ヒラメ筋線の発達はよくはないが、この中央部から下方へ一稜が走っており、骨体の断面形は両側とも菱形で、ヘリチカのIV型を呈している。

計測値は、脛骨最大長が 311mm(右)、310mm(左)、骨体周は 66mm(右)、67mm(左)、最小周は 58mm(右)、59mm(左)で、骨体は細く、長厚示数は 18.89(右)、19.34(左)で、骨体はきゃしゃである。中央最大径は 25mm(右)、26mm(左)、中央横径は 16mm(右)、15mm(左)で、中央断面示数は 64.00(右)、57.69(左)となり、この時代の女性としては骨体はかなり扁平である。

④腓骨

長さはあまり長くはないが、骨体の径は小さくはない。稜の発達は良好であるが、溝は深くない。

4. 推定身長値

大腿骨最大長から、Pearson および藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ 146.37cm(Pearson、右)、146.37cm(Pearson、左)、145.72cm(藤井、右)、145.92cm(藤井、左)となり、低身長である。

5. その他の所見

椎骨は健康である。腰椎の椎体には加齢による骨体の棘形成は認められない。胸椎体に弱い骨棘がみられる程度で、年齢以上に椎骨は健康である。

右側の第5中足骨は、骨体がやや膨らみ、底面では外側から斜めに骨粗造が認められる。おそらく骨折の痕跡であろう。

右側の鼓室に穴がみられる。8mm×9mm大の穴で、断端がイレギュラでなめらかではない。上顎

体はかなり萎縮しており、眼窩下はかなり窪んでいるが、病的な窪みや変形ではない。上顎右側中切歯は両側から舌側を金で覆い、唇側だけを露出させている。左側側切歯は犬歯からブリッジを架けている。下顎左側第一大臼歯冠は金をかぶせており、左側第一、第二小臼歯は犬歯と第一大臼歯間にブリッジを架けている。左側第一、第二小臼歯は偽歯冠、上顎左側側切歯も偽歯冠である。

考 察

人骨所見を踏まえ、先の「岩瀬彌助の生涯 第2部 日本の女医を育てた高橋瑞」に記載されている瑞の特徴が、人骨に合致するかどうか、検討してみた。この本には瑞の写真が掲載されている。肥満型の容貌・体型で、「彼女は太っていた」との記載もあるが、骨から生前太っていたかどうかはわからない。「背はあまり高くない」という一文があるが、同時に「日本女医史」にある「小雨のなかを傘をもたぬ大柄の女が」という文章も載せている。病理解剖所見では身長が約145cmとなっている。江戸時代は男女とも身長が最も低い時代である。大腿骨から推定した身長値は約146cmで、病理解剖所見の身長値の約145cmとほぼ一致する。江戸時代人としてみればこの身長はやや高い。容貌については「目も鼻も口も大きく」とある。本頭蓋の眼窩はやや大きいので、目が大きかった可能性はある。しかし、骨から鼻や口のサイズは復元できない。また、大正6年に交通事故に遭い、右足を負傷し、手術を受けたとある。脛骨と腓骨には骨折の跡はみられないが、右側の第5中足骨には骨折の跡と思える骨粗造が認められ、この傷が大正6年の交通事故による損傷の跡であろう。病理解剖所見には「骨格良高度の脂肪過多症なり」とあり、骨格は丈夫で健康だったのかもしれない。瑞は1時間半歩いて済生学舎に通ったというから、足の筋はよく鍛えられていた可能性はある。脛骨後面に走る一稜と骨体の扁平性がそれを物語っており、下腿筋の発達が良かったことがうかがえる。また、「参考書を首にくくりつけてテクテクと済生学舎へと向かった」という。書物の風呂敷包みを首にかけ癖があったらしいと記載されているので、頸椎に負担がかかったことも予想されるが、頸椎には異常は見当たらない。若い頃にはかなり無茶な生活、過酷な生活をした可能性があるため、骨に何らかの痕跡が残っていないか、精査してみたが、そのような痕跡はみつかることができなかった。上肢骨はきゃしゃであるが、下肢骨は筋の発達がよかったことを示すように筋付着部の発達が良好で、全身の骨はきわめて健康である。

また、寛骨にある耳状面前溝がかなり深い。この溝は妊娠痕・出産痕とも呼ばれており、妊娠・出産時に形成されると推測されている。妊娠・出産しなければこの溝はできないのか、妊娠・出産すれば必ず形成されるのかはまだ議論、検証の余地があるが、この溝が深ければ妊娠・出産の経験がある可能性は高いと思われる。瑞には結婚歴と離婚歴がある。結婚については、明治10年、彼女が24歳のときに叔母の養子となったが、この養子縁組は、すでに叔母の養子となっていた男性との結婚を意味していたという。もう一説は某知事の妾の小間使いとして働いていたとき、妾の弟と結婚したという。しかし、いづれにしても彼女は離婚して、ある人力車夫と暮らしていたが、その後別れたという。このように結婚したり同棲したりしていることから、妊娠したとしてもおかしくはないが、妊娠や出産の記録は残っていないようである。

要 約

わが国第3号の女医、高橋瑞の遺骨の人類学的調査を実施し、以下の結論を得た。

1. 頭蓋最大長 168 mm、頭蓋最大幅 140 mm、バジオン・ブレグマ高 128 mm、頭蓋長幅示数 83.33、頭蓋長高示数 76.19、頭蓋幅高示数 91.43 となり、頭型は短頭型で、頭の高さは低い。
2. 顔長 98 mm、頬骨弓幅 125 mm、中顔幅 90 mm、顔高 113 mm、上顔高 65 mmで、顔示数 90.40 (K)、125.56 (V)、上顔示数 52.00 (K)、72.22 (V) となり、顔面は高・狭顔である。
3. 眼窩幅 42 mm (右)、42 mm (左)、眼窩高 36 mm (右)、34 mm (左) で、眼窩示数 85.71 (右)、80.95 (左) となり、眼窩の高径は高い。
4. 鼻根彎曲示数は 88.89 となり、鼻根部は扁平である。歯槽側面角は 70 度で、歯槽性突顎の傾向が認められる。
5. 上肢骨は、長さは短く、骨体も細く、きゃしゃである。
6. 大腿骨も長さは短く、骨体も細いが、粗線の発達は良好で、骨体上部も扁平である。脛骨も長さは短く細いが、後面には稜線が認められ、骨体は扁平である。
7. 推定身長値は 146.37cm (Pearson、右)、145.72cm (藤井、右) で、病理解剖所見とほぼ一致し、当時としてはやや身長が高い方である。
8. 右側第5中足骨には骨折の跡と思える骨粗造が認められ、これが大正6年の交通事故による損傷の跡である。
9. 耳状面前溝がかなり深く、妊娠・出産の経験を示唆している。
10. 高橋瑞の容貌は、当時の一般庶民の容貌とは異なり、高・狭顔である。江戸時代人骨の研究結果から、武家層と非武家層とでは顔・かたちはかなり異なっていたことが明らかになっている。瑞の父が西尾藩士であることから彼女も士族であり、彼女の容貌はまさに士族の容貌である。身長は当時としてはわずかに高い。上肢骨はきゃしゃで、筋付着部の発達もみられない。下肢骨もけっして大きくはないが、筋付着部の発達は良好で、下肢の筋をよく使っていたことが骨の特徴から読み取れ、彼女の生活史の記録ともよく一致している。今回の高橋瑞の人生記録と骨格の研究によって、生活スタイルが人骨にどのような影響与え、結果を残すのかという課題に関して、重要な手がかりを得ることができた。

謝辞

本研究の趣旨を理解していただき、高橋瑞氏ご遺骨の研究に関してご便宜をおはかりくださった、東京女子医科大学医学部解剖学教室の佐々木宏教授ならびに教室員の皆様に感謝いたします。

《参考文献》

1. 磯谷逸夫、1990、岩瀬彌助の生涯 第2部 日本の女医を育てた高橋瑞、三河新報社
2. Martin-Saller, 1957 : Lehrbuch der Anthropologie. Bd. I. Gustav Fisher Verlag, Stuttgart : 429-597.
3. 松下孝幸・他、1983 : 山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第7次発掘調査概報 (豊北町埋蔵文化財調査報告2) : 19-30.
4. 鈴木 尚、1963 : 日本人の骨。岩波書店、東京。

表1 脳頭蓋(mm)(Calvaria)

		高橋瑞 (No.13)	女性
1.	頭蓋最大長	168	
8.	頭蓋最大幅	140	
17.	バジオン・ブレグマ高	128	
8/1	頭蓋長幅示数	83.33	
17/1	頭蓋長高示数	76.19	
17/8	頭蓋幅高示数	91.43	
1+8+17/3	頭蓋モズルス	145.33	
5.	頭蓋底長	92	
9.	最小前頭幅	93	
10.	最大前頭幅	110	
11.	両耳幅	120	
12.	最大後頭幅	107	
13.	乳突幅	98	
7.	大後頭孔長	31	
16.	大後頭孔幅	28	
16/7	大後頭示数	90.32	
23.	頭蓋水平周	493	
24.	横弧長	306	
25.	正中矢状弧長	357	
26.	正中矢状前頭弧長	121	
27.	正中矢状頭頂弧長	118	
28.	正中矢状後頭弧長	118	
29.	正中矢状前頭弦長	104	
30.	正中矢状後頭弦長	106	
31.	正中矢状後頭弦長	97	
29/26	矢状前頭示数	85.95	
30/27	矢状頭頂示数	89.83	
31/28	矢状後頭示数	82.20	

表2 顔面頭蓋(mm、度)(Facial skeleton)

		高橋瑞 (No.13)	女性
40.	顔長	98	
41.	側顔長	66	
42.	下顔長	92	
43.	上顔幅	100	
45.	頬骨弓幅	125	
46.	中顔幅	90	
47.	顔高	113	
48.	上顔高	65	
47/45	顔示数(K)	90.40	
48/45	上顔示数(K)	52.00	
47/46	顔示数(V)	125.56	
48/46	上顔示数(V)	72.22	
40+45+47/3	顔面モズルス	112.00	
50.	前眼窩間幅	16	
44.	両眼窩幅	95	
50/44	眼窩間示数	16.84	
51.	眼窩幅(右)	42	
	(左)	42	
52.	眼窩高(右)	36	
	(左)	34	
52/51	眼窩示数(右)	85.71	
	(左)	80.95	
54.	鼻幅	25	
55.	鼻高	49	
54/55	鼻示数	51.02	
55(1).	梨状口高	29	
56.	鼻骨長	23	
57.	鼻骨最小幅	4	
57(1).	鼻骨最大幅	16	
60.	上顎歯槽長	52	
61.	上顎歯槽幅	57	
62.	口蓋長	44	
63.	口蓋幅	-	
64.	口蓋高	-	
61/60	上顎歯槽示数	109.62	
63/62	口蓋示数	-	
64/63	口蓋高示数	-	
72.	全側面角	83	
73.	鼻側面角	86	
74.	齒槽側面角	70	

表3 鼻根部(mm、度)(Nasal root)

		高橋瑞 (No.13)	女性
50.	前眼窩間幅	16	
50A.	鼻根横弧長	18	
50/50A	鼻根曲示数	88.89	
57.	鼻骨最小幅	4	
44.	両眼窩幅	95	
50/44	眼窩間示数	16.84	
a.	前頭突起上幅(右)	11	
	(左)	12	
b.	前頭突起水平傾斜角	111	
c.	G-N投影距離	3	
d.	鼻根角	149	
e.	G-R距離	37	
f.	垂線高	7	
f/e	鼻根陷凹示数	18.92	
77.	鼻類骨角	154	
Fa	fmo間距離	95	
Fh	垂線高	11	
Fh/Fa	顔面扁平示数	11.58	

表4 下顎骨(mm、度)(Mandibula)

		高橋瑞 (No.13)	女性
65	下顎関節突起幅	114	
65(1).	下顎筋突起幅	100	
66	下顎角幅	95	
67	前下顎幅	43	
68	下顎長	65	
68(1).	下顎長	102	
69	オトガイ高	34	
69(1).	下顎体高(右)	31	
	(左)	-	
69(2).	下顎体高(右)	25	
	(左)	-	
70	枝高(右)	53	
	(左)	51	
70(1).	前枝高(右)	59	
	(左)	58	
70(2).	最小枝高(右)	46	
	(左)	44	
70(3).	下顎切痕高(右)	15	
	(左)	15	
71(1).	下顎切痕幅(右)	33	
	(左)	34	
71	枝幅(右)	30	
	(左)	31	
71a.	最小枝幅(右)	30	
	(左)	31	
79	下顎枝角(右)	136	
	(左)	135	
66/65	下顎幅示数	83.33	
68/65	幅長示数	57.02	
68(1)/65	幅長示数(右)	84.47	
69(2)/69	下顎高示数(右)	73.53	
	(左)	-	
71/70	下顎枝示数(右)	56.60	
	(左)	60.78	
71a/70(2)	下顎枝示数(右)	65.22	
	(左)	70.45	
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)	45.45	
	(左)	44.12	

表5 肩甲骨(mm)(Scapula)		高橋瑞 (No.13)
		女性
12.	関節窩長(右)	34
	(左)	32
13.	関節窩幅(右)	24
	(左)	24
14.	関節窩深(右)	4
	(左)	4
13/12	関節窩長幅示数(右)	70.59
	(左)	75.00
14/12	関節窩彎曲示数(右)	11.76
	(左)	12.50

表6 鎖骨(mm)(Clavicula)		高橋瑞 (No.13)
		女性
1.	鎖骨最大長(右)	128
	(左)	131
2a	骨体彎曲高(右)	32
	(左)	30
2(1)	肩峰端彎曲高(右)	28
	(左)	27
4.	中央垂直径(右)	8
	(左)	8
5.	中央矢状径(右)	10
	(左)	10
6.	中央周(右)	30
	(左)	29
6/1	長厚示数(右)	23.44
	(左)	22.14
2a/1	彎曲示数(右)	25.00
	(左)	22.90
4/5	鎖骨断面示数(右)	80.00
	(左)	80.00
2(1)/1	肩峰端彎曲示数(右)	21.88
	(左)	20.61

表7 上腕骨(mm)(Humerus)		高橋瑞 (No.13)
		女性
1.	上腕骨最大長(右)	269
	(左)	270
2.	上腕骨全長(右)	262
	(左)	264
3.	上端幅(右)	42
	(左)	42
3(1).	横上径(右)	45
	(左)	45
4.	下端幅(右)	55
	(左)	55
5.	中央最大径(右)	18
	(左)	18
6.	中央最小径(右)	14
	(左)	14
7.	骨体最小周(右)	51
	(左)	51
7(a).	中央周(右)	52
	(左)	52
8.	頭周(右)	115
	(左)	117
9.	頭最大横径(右)	36
	(左)	36
10.	頭最大矢状径(右)	38
	(左)	38
11.	滑車幅(右)	20
	(左)	20
12.	小頭幅(右)	14
	(左)	15
12(a).	滑車幅および小頭幅(右)	39
	(左)	39
13.	滑車深(右)	21
	(左)	21
14.	肘頭窩幅(右)	25
	(左)	26
15.	肘頭窩深(右)	12
	(左)	12
6/5	骨体断面示数(右)	77.78
	(左)	77.78
7/1	長厚示数(右)	18.96
	(左)	18.89

表8 橈骨(mm)(Radius)		高橋瑞 (No.13)
		女性
1.	最大長(右)	205
	(左)	204
1b.	平行長(右)	204
	(左)	203
2.	機能長(右)	193
	(左)	191
3.	最小周(右)	31
	(左)	31
4.	骨体横径(右)	13
	(左)	13
4a.	骨体中央横径(右)	12
	(左)	12
4(1).	小頭横径(右)	19
	(左)	19
4(2).	頸横径(右)	11
	(左)	13
5.	骨体矢状径(右)	9
	(左)	10
5a.	骨体中央矢状径(右)	9
	(左)	10
5(1).	小頭矢状径(右)	19
	(左)	19
5(2).	頸矢状径(右)	11
	(左)	13
5(3).	小頭周(右)	61
	(左)	62
5(4).	頸周(右)	35
	(左)	38
5(5).	骨体中央周(右)	34
	(左)	34
5(6).	骨下端幅(右)	-
	(左)	-
3/2	長厚示数(右)	16.06
	(左)	16.23
5/4	骨体断面示数(右)	69.23
	(左)	76.92
5a/4a	中央断面示数(右)	75.00
	(左)	83.33

表13 膝蓋骨(mm) (Patella)

		高橋瑞 (No.13) 女性
1. 最大高(右)		35
	(左)	37
2. 最大幅(右)		40
	(左)	39
3. 最大厚(右)		17
	(左)	17
4. 関節面高(右)		28
	(左)	28
5. 内関節面幅(右)		20
	(左)	18
6. 外関節面幅(右)		24
	(左)	25
1/2 膝蓋骨高幅示数(右)		87.50
	(左)	94.87

表14 推定身長値(cm) (Stature)

		高橋瑞 (No.13) 女性
Pearsonの式	上腕骨(右)	145.56
	(左)	145.83
	橈骨 (右)	149.76
	(左)	149.42
	大腿骨(右)	146.37
	(左)	146.37
藤井の式	脛骨 (右)	146.97
	(左)	146.51
	上腕骨(右)	145.32
	(左)	145.97
	橈骨 (右)	147.10
	(左)	147.42
	大腿骨(右)	145.72
	(左)	145.92
	脛骨 (右)	146.29
	(左)	146.29

表15 最大長の比

		高橋瑞 (No.13) 女性
橈骨/上腕骨	(右)	76.21
	(左)	75.56
橈骨/尺骨	(右)	93.61
	(左)	93.58
橈骨/大腿骨	(右)	54.23
	(左)	53.97
橈骨/脛骨	(右)	65.92
	(左)	65.81
上腕骨/大腿骨	(右)	71.16
	(左)	71.43
上腕/脛骨	(右)	86.50
	(左)	87.10
脛骨/大腿骨	(右)	82.28
	(左)	82.01
腓骨/脛骨	(右)	97.75
	(左)	97.42
鎖骨/上腕骨	(右)	47.58
	(左)	48.52
上肢骨/下肢骨	(右)	68.80
	(左)	69.51

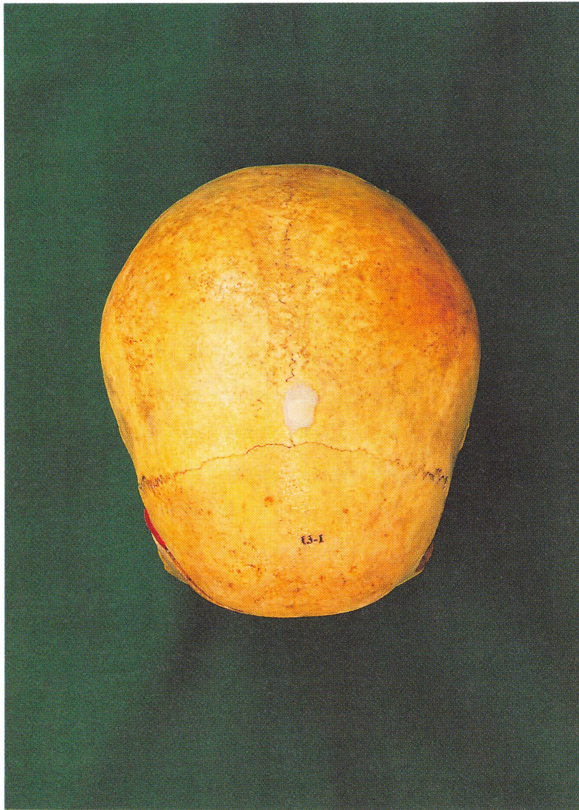
表16 中央周の比

		高橋瑞 (No.13) 女性
橈骨/尺骨	(右)	85.00
	(左)	89.47
橈骨/上腕骨	(右)	65.38
	(左)	65.38
鎖骨/上腕骨	(右)	57.69
	(左)	55.77
上腕骨/大腿骨	(右)	66.67
	(左)	67.53
上腕骨/脛骨	(右)	78.79
	(左)	77.61
脛骨/大腿骨	(右)	84.62
	(左)	87.01
腓骨/脛骨	(右)	60.61
	(左)	59.70

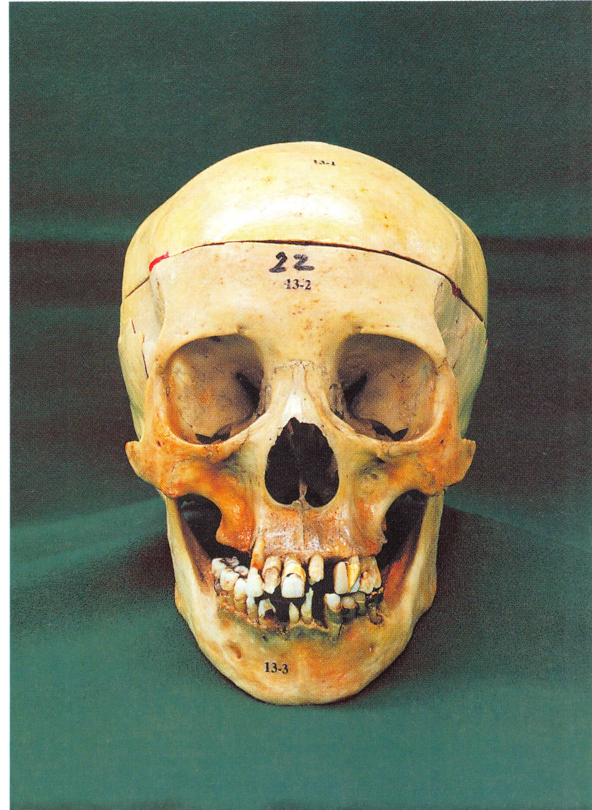
表17 形態小変異(Non-metoric crania variants)

	高橋瑞 (No.13) 女性	
	右	左
1. Medial palatine canal(内側口蓋管)	-	-
2. Pterygospinous foramen(翼棘孔)	-	-
3. Hypoglossal canal bridging(舌下神経管二分)	+	-
4. Clinoid bridging(床状突起間骨橋)	/	/
5. Condylar canal absent(顎間欠如)	-	-
6. Tympanic dehiscence, Foramen of Huschke(>1mm) (フシュケ孔、鼓室骨裂孔)	+	+
7. Jugular foramen bridging	+	+
8. Precondylar tubercle	-	-
9. Supra-orbital foramen(incl.frontal foramen)(眼窩上孔)	-	-
10. Accesory infraorbital foramen(副眼窩下孔)	-	-
11. Zygo-facial foramen absent	-	-
12. Aural exostosis(外耳道骨腫)	-	-
13. Metopism(前頭縫合)	-	
14. Os incae(インカ骨)	-	
15. Ossicle at the lambda(ラムダ小骨)	-	
16. Parietal notch bone(頭頂切痕骨)	-	-
17. Transverse zygomatic suture(>5mm)	-	-
18. Asterionic ossicle	-	-
19. Occipitomastoid ossicle	-	-
20. Epipterice ossicle	+	-
21. Frontotemporal articulation	-	-
22. Biasterionic suture(>10mm)	-	-
23. Mylohyoid bridging(顎舌骨筋神経溝骨橋)	+	-
24. Accessory mental foramen(副オトガイ孔)	-	-
25. Mandibular torus(下顎隆起)	-	-
26. 滑車上孔(上腕骨)	+	+

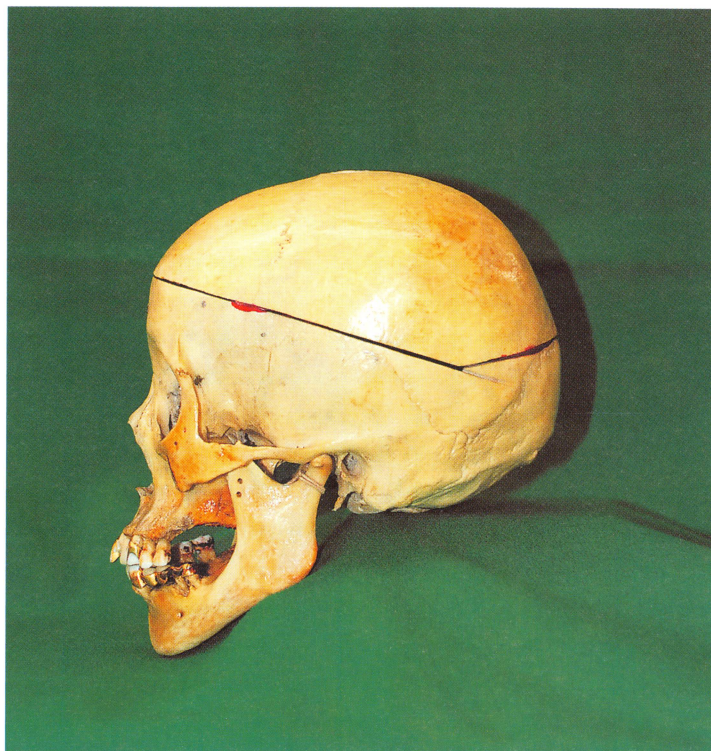
[present : + , absent : - , unobservale : /]



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)

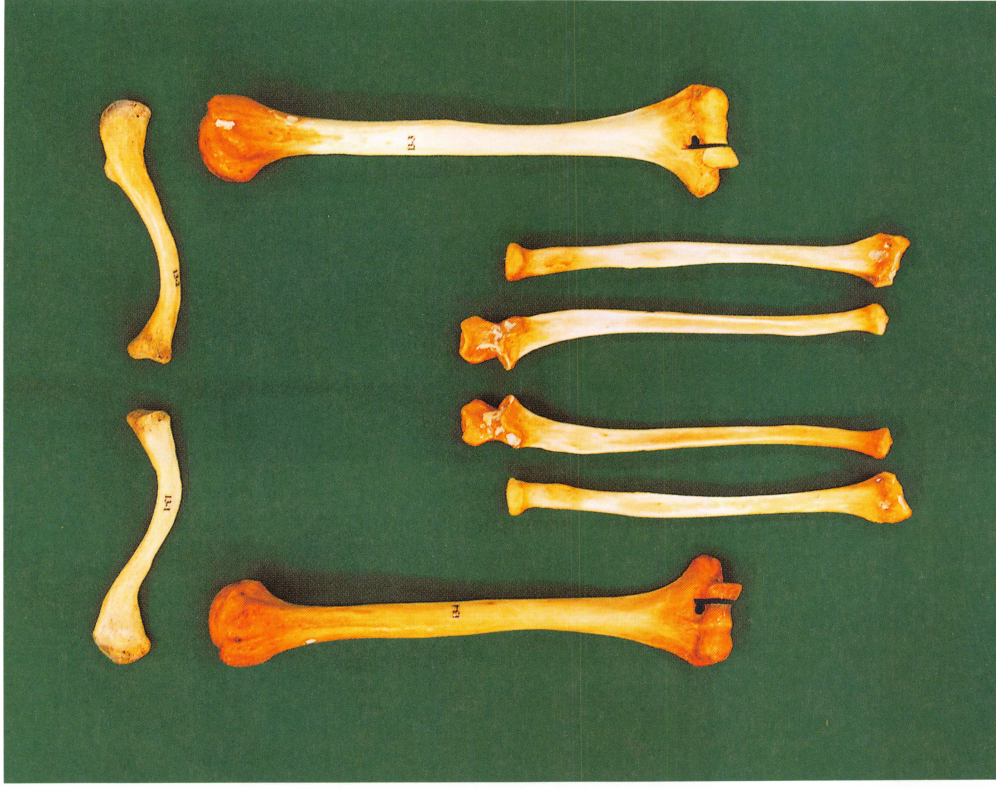


頭蓋側面 (Lateral view of the skull)
高橋瑞(女性) (Takahashi Mizu, female)

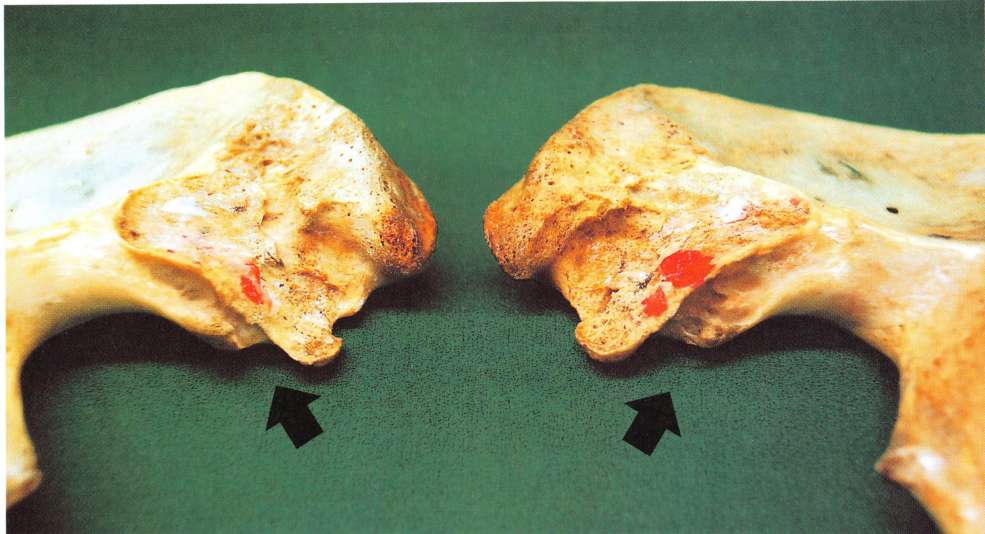


下肢骨 (Bones of the lower)

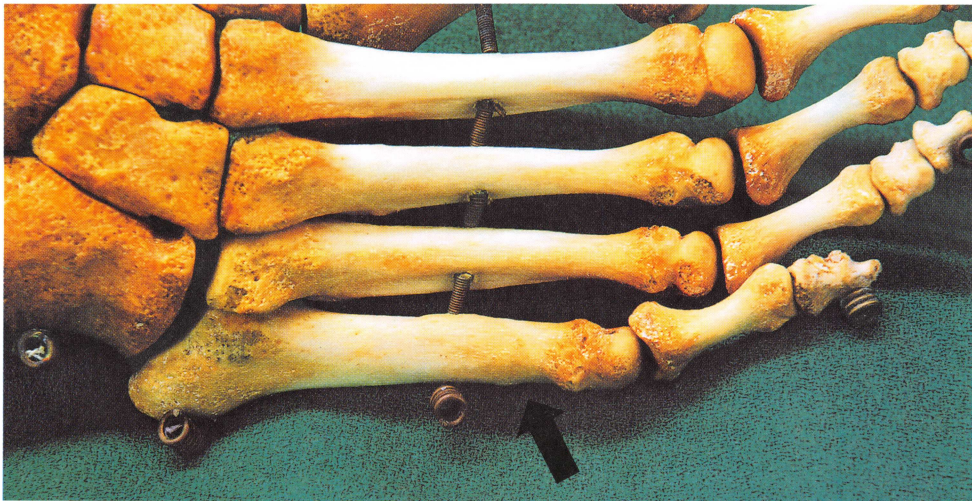
高橋瑞 (女性)
(Takahashi Mizu, female)



上肢骨 (Bones of the upper)



深い耳状面前溝(The preauricular sulcus)



第5中足骨(右)
骨粗造面
(The right fifth metatarsal bone)

高橋瑞(女性)
(Takahashi Mizu, female)

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要

第8号

発行年月日	2013年3月
編集・発行	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8 TEL 083-788-1841・1842 FAX 083-788-1843
印刷	株式会社吉村印刷 〒750-0004 山口県下関市中之町 5-9 TEL 083-232-1190 FAX 083-232-1189
